

令和4年度 磐田市立豊田南中学校 学校評価書

重点	目標・取組(項目)	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学校経営の視点		保護者は、学校が目指している子供の姿や教育内容について知っているか。	A	○91%(昨年度89%)の保護者が「たよりや各種活動の参観などを通して、学校が目指している子供の姿や教育内容がわかる」と回答している。今年度は、学校行事や参観会など、予定通り保護者に参観していただくことができたことや、各種たよりや、ホームページなどを通じて日々の学校の様子を発信することができた。 ※引き続き、保護者に御理解いただけるよう、情報発信に努めていく。 ○98%(昨年度は95%)の生徒が「先生は自分のことを理解してくれる」と回答している。とても高い評価であった。 ※生徒一人一人の内面理解を引き続き丁寧に行っていく。	○コロナ禍で、今年度も中学生の様子を行事や校内で参観する機会が少なく残念だったが、ホームページで日々の様子を見ることができ、学校の様子を知ることができた。 ○ホームページでの発信は、今時の学校の様子が分かり、微笑ましい思いで見ている。写真に一言添えられていてその瞬間の雰囲気・空気が伝わってくる。 ○情報提供の手段を増やすことで保護者へ情報をうまく伝えることができたことは大変良かった。 ○生徒の肯定的な回答が98%というのは、信頼度が高い。学校側の指導について高く評価できる。 ○教員が生徒の理解度を把握して授業を進めていると思われる。各教員の熱心な取組が数値として現れ、高い評価が得られている。勉学以外の精神面、友人関係および家庭事情等についても、教員と開けた関係を構築してほしい。 ○引き続き、学校と保護者、教員と生徒のコミュニケーションを大切にしてほしい。
		先生は子供のことを理解して指導にあたっているか。	A		
伝え合い学び合う力の育成(自ら学ぶ)	よくわかる授業の実践	生徒は、授業で学習した内容がわかっているか。	A	○93%(昨年度は85%)の生徒は「授業で学習した内容がわかる」と回答している。また、「進んで学習している」と回答した生徒の割合は80%(昨年度も80%)となっている。83%(昨年度は79%)の生徒が「住んでいる地域や行事が好き」と回答している。昨年度配付された1人1台端末等のICT機器を活用するとともに、校内研修を中心とした主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指した授業改善、その基盤となる落ち着いた授業の雰囲気などが、この結果に表れていると思われる。	○授業全体に関する満足度や理解度が高いと思われる。全体的に年々良好な方向にあり、今後も継続して充実した教育をしてほしい。 ○ICT機器を活用するようになり、授業内容も変化し教員も大変だと思われる。子供たちが新しい知識を吸収する喜びや好奇心をもたせるような授業をお願いしたい。 ○chromebookのおかげで出席停止の際に家にも授業に参加できるので有り難い。 ○授業は楽しく分かりやすいと聞いている。 ○今の中学校の授業は、こんなに楽しく興味深いものなのだと改めて感じた。 ○地域のどのようなことが好きなのか具体的に分かれば知らせてほしい。 ○93%の生徒が授業に対して肯定的な回答をしているが、定着度の観点から見ると、93%の生徒が学習内容を定着させている訳ではないと思う。この数値が定着度に近付くことでさらに生徒・教員の信頼関係が深まると思う。
		生徒は、進んで学習しているか。	A		
		生徒は、住んでいる地域のことに興味があるか。	A		
かわり合いを深め質の高い集団の育成(共に生きる)	主体性の実践	生徒は、自分の進路や将来の生き方について考えを持っているか。	B	○「進路や生き方について考えている」の肯定的な評価は77%(昨年度は79%)である。学年間で意識の差が大きく、3年生では88%が肯定的な回答となっているが、他学年が70%台であった。 ※1・2年生の進路学習や生き方、人としての在り方について考える機会を増やす。	○職場体験学習や職業講話などの機会を設けているため、将来の夢、そしてそれに伴う進路先が明確になり有り難い。 ○生徒が希望した職種以外の方の話や体験を行うことも視野を広げる意味で大切であると思う。 ○進路相談は、三者面談などでも相談できる雰囲気があり、最後までフォローしていただけるのは助かる。 ○1・2年生は、クラスや部活動、地域、家庭で自分がどんな役に立てるのか、良い影響を与えることのできる「人としての在り方」を掘り下げた方がよいと思う。多種多様な大人との出会い、きっかけを与えるとよいと思う。 ○今年度もレジリエンス教育に力を入れ、心のたくましさを鍛えていることが分かった。今の子供たちは、感じやすく繊細な子が多いのだろうか。 ○子供が乳幼児期から安心安全に育つことができる地域づくりが大切であると受け止めている。
		生徒は、目標を持ち毎日の学校生活を送っているか。	A	○生徒が「目標をもって生活している」と答えた割合は86%(昨年度も86%)であった。今年度もレジリエンス授業を学期ごとに1回ずつ行っている。しなやかなたくましさ、一度気持ちが落ち込んでも、できるだけ早く回復していくための心の持ち方等を今後も生徒に身に付けさせていきたい。	
	共生する態度の実践	学級(学校)には、互いにルールを守り協力する雰囲気があるか。	A	○「ルールを守り協力する雰囲気がある」94%(昨年は95%)「相談できる友人や先生がいる」91%(昨年は93%)「学校が楽しい」87%(昨年は88%)の3項目の結果から、昨年に引き続き、今年度も安心・安全な学校生活を多くの生徒が送れているといえる。 ※問題の早期発見、早期対応はもちろんのこと、しっかりと一人一人の生徒の心に寄り添い、丁寧に対応していくとともに、魅力ある学校づくりを推進していく。	○子供からの話や部活動等の様子を見ると、男女関係なく仲の良い感じが伝わってきて、学級・学校の雰囲気も良いのと思う。 ○学校全体でみんなしっかりルールを守っているという雰囲気があると思う。 ○学校生活の満足度が高いことは、学校施設、学校環境が十分に整備されていると思われる。 ○生徒のみならず、教員も一緒に問題解決と活性化に努力願いたい。 ○スポーツ部活を始め、部活動の縮小傾向が学校生活への楽しさを減退させていることはないだろうか。 ○中学時代に何でも相談できる友人をたくさんつづけてもらいたい。中学・高校時代の親友が一生の友になることが多い。 ○相談できる人がいない9%、学校が楽しくない13%の子供が心配。心が折れないよう、家庭や学校、友達をサポートできればよいが、レジリエンス強化として自分で自分を応援したり、内親したりするスキルが身に付けばよいと思う。
生徒は、悩み事を相談できる人が学級や学校にいるか。		A			
生徒は、学校が楽しいと感じているか。		A			
健やかでつよい心身の育成(心豊か)	心身を成長させる諸活動の実践(南中賛歌)	生徒は、あいさつや返事がしっかりできるか。	A	○「あいさつ・返事ができる」と感じている生徒が96%(昨年は97%)、「お子さんはあいさつや返事が身に付いている」に肯定的な回答をされた保護者の方も90%と多い。 ※今後も、あいさつが活発に交わされる学校を目指し、生徒会を中心に「南中賛歌の「美しくあいさつ」について考え、実際の姿として表せるようにしていく。 ○ボランティア活動に積極的に参加している」と答えた生徒は80%(昨年も80%)であった。進んで他者のためになることを素直な気持ちで行うことができる生徒がとても多い。 ※生徒の活躍の場を地域、校内ともに広げていきたい。	○毎朝登校の様子を見ているが、大変良いと思う。 ○あいさつについて、生徒、保護者ともに良好な結果だと思う。 ○社会に出る前に「生きる力」を身に付けてほしい。そのためにも、あいさつ・返事はもちろん、自ら考えて行動したり、発信したりできるように中学校で学んでほしい。 ○子供見守りボランティアの方々へのあいさつが若干消極的に見える。地域の方々へのあいさつも積極的にしてほしい。 ○校内ではもちろんだが、校外でも快くあいさつしてくれる。 ○あいさつや返事は、来校した際、ある時とない時があり、あまりできないのかなと感じた。自己評価が高いのかも。 ○あいさつは大切なこと。心がこもったあいさつに向かって改善していくことを期待する。 ○是非とも井通交流センターの春・秋の環境美化活動及び井通地域づくり協議会主催の夏祭りにもボランティアとして参加願いたい。 ○ボランティアは校風(南中賛歌)が良い影響を与えているのかもしれない。この学校はそういう学校なんだと中1の最初にマインドセットされれば、息を吸うように手助けできる人が育ちやすくなると思う。 ○縦割りの交流などを通して、生徒同士のボランティアもよいのではないかと。生徒間の信頼・信用が育つのではないかと。
		生徒は、校歌を堂々と歌うことができるか。	—		
		生徒は、ボランティア活動に積極的に参加しているか。	A	○南中賛歌の「明るく歌声」では、校歌を歌う機会はコロナ禍のため、設定していないが、合唱コンクールでは2年振りに全校が一室に会して新しい磐田市民文化会館「かりあ」で実施することができた。限られた条件下での練習であったが、当日は歌声がホールに響き渡るともよい合唱コンクールとなった。	

<学校関係者評価を受けてのまとめ>
 ○状況は変化したものの依然としてコロナ禍のため、感染症対策を考慮した教育活動となった。情報発信の方法を改善したり、1人1台端末の授業への活用方法を広げたりした。また、生徒の内面理解に重点をおいた学級経営、学習指導を心掛けたことで生徒、保護者の学校評価アンケートの数値が高まった。学校関係者評価委員の方々からも理解が得られ、改善点を含む貴重な御意見をいただくことができた。
 ○令和5年度は引き続き、深い生徒理解を基盤として「魅力ある学校づくり」、「居心地のよい学級づくり」、「わかる授業づくり」を進める。特に、生徒の主体性を育むことを、授業はもちろん全ての教育活動の中で進めていきたい。また、SCおよび外部機関との連携を図るとともに生徒一人一人に丁寧に対応し、不登校生徒、別室登校生徒を新規に増やさないための早期発見、早期対応を促す。
 ○井通・青城学府小中一貫教育による、あいさつ運動や健康教育、授業改善など、小中9カ年を見通した取組を推進する。ボランティア活動を始めとして、地域の行事へ生徒が主体的に関わっていけるような雰囲気を高める。
 ※学校評価全体について、A評価が多いことは良いことであるが、改善につなげるためには、アンケートの取り方や内容を検討した方がよいのではないかと御意見をいただいた。共通項目については変更できないので、生徒指導主事や各教科担任等が行うアンケート調査等を基に実態把握に努め、指導の改善につなげていきたい。